

上越ケーブルビジョン

平成28年度 番組審議会 議事録

日時：平成29年3月10日（金）14:00～15:30

場所：JCV2F 会議室

出席者（審議委員：五十音順）

- 池田弘 氏 ○上野 迪音 氏 ○小林 美佐子 氏
○斉京 貴子 氏 ○佐藤 隆義 氏 ○西村 俊夫 氏
（上越ケーブルビジョン）
○副社長 齋藤俊幸
○放送部 部長 福嶋良章
○放送部 放送課 課長 佐藤康司
○放送部 放送課 課長代理 沢田真紀

1 開会

2 会社挨拶（齋藤俊幸）

3 会長挨拶（西村会長）

4 議事

(1) レギュラー番組について

- ・「Passion シゴトに情熱」

産学官民ということばもあるが、この番組は地元の企業について裏側取材し紹介することで改めてその企業の取り組みなどを伝えたい。驚きや発見も伝えられたら。

<紹介映像> 大江製作所 スキーのエッジを製作 国内シェア 100%

※日本スキー発祥記念館でも紹介

- ・「上越妙高百景」

地域の自然・文化・歴史等残していきたい風景を4Kカメラで記録し、画質を落とすことなく放送している。ドローンでの撮影も行っている。

- ・「おじゃまします！みんなの学校」

子どもたちが主役の番組。ナレーションを極力入れず現場の生の声・表情を拾っていく。CSの取組や地域とのつながりも紹介

（池田委員） Passion はどんな時間帯で放送？

（佐藤） 出来るだけ色々な時間帯で放送し多くの方の目に触れるよう時間帯をバラして放送している

(池田委員) 実際私は、二つの番組 (Passion 学校) をしらなかった。
もったいない

(上野委員) 放送時間を散らすのは、なんとかひっかかりたいという趣旨？
放送内容の価値は素晴らしいので、ちらして運が良ければひっかかる、
だと能動的に見たい人にとってはどうなのか？ 別の方法は？

(佐藤) その声を生かすためにタウン情報という仕組みも構築し配信している

(上野委員) 講演会での使用などにも使ってもらいたい位のクオリティ、
財産だと思う。

(佐藤) 我々も見てもらうための努力をもっとする必要がある。
地域とのつながりも大切に映像を使ってもらい、広げていきたい。

(上野委員) 町で企業を応援していきたいという気持ちが芽生えた。

(2) 新たな取り組みについて

- ・ドローン、ジンバルを活用した映像 (ジンバル、ドローン、4Kカメラ 紹介)
- ・上越妙高タウン情報について

(上野委員) タウン情報は基本的に映像ではなく写真？速報性重視？

(佐藤) 速報性ととも、番組でカバーしきれない多くの情報も伝えている

(上野委員) 会員登録をしないと見られない？

(佐藤) 登録が必要なのはライブカメラのみ。
ニュース LiNK での放送前に出したネタは、放送日程を伝え番組への
誘導も行っている。

(上野委員) ライブカメラは24時間通年で流す？

(佐藤) 現在は静止画での24時間配信。

(池田委員) 全国どこでも見られる。
ふるさとを離れた人でも地元の様子を知ることができて大変良い。

(福島) 海外もふくめ、エリア外が7割ほど。全国・世界から上越妙高に来て
みたいという人のためにも季節の映像等も配信している。

(池田委員) 英語バージョンもあると良いのでは？

(佐藤) 今後の展開を検討している

(上野委員) 掲載した情報はストックされていく？

(佐藤) 期限のあるものも一部あるが、ストックされていく。
強みは映像。他社との差別化を図っている。

(上野委員) 広告は入れていない？

(佐藤) 行く行くは、と考えている。
現在は知ってもらうために、記事の掲載に力を入れている

これまでは制作することに注力していたが現在は、取材先にチラシを置くなど、PRにも努めている。新たな取組として、長野県内他局との同時生放送などの連携も行っている。近隣のCATV局とも連携し、広がりを見せていきたい。

(佐藤委員) 道路情報のカメラがきれいになって雪か雨の判断もできてよい。交差点では車のナンバーも見えるくらいきれいになった。

(佐藤) 冬場は凍結したり雪が付着して見えにくい時もあるが、それで寒さを感じてもらえたら。

(西村会長) 新しい取り組みについて、活用方法などのご意見は？

(佐藤委員) タウン情報は、知らない人に知ってもらえると使えるもの。

(池田委員) これだけ広がると社員だけでは難しくなる。スキーなどはプロの人にカメラをお願いするなどすれば違った映像を見ることができるのでは

(上野委員) テレビがスマホなどの動画に負けてしまいそうな時代。投稿動画などは？

(佐藤) 著作権などをクリアする必要もあるが、投稿動画で参加して、一緒に使ってもらいたいという思いがある。

(西村会長) FMとの同時放送については？

(佐藤) テレビとラジオとでは話す内容や表現方法などの違いもあり様々な課題が見えてくる

(池田委員) 高齢者を巻き込んでいく工夫も必要。新しいものばかりだと高齢者がおいて行かれる

(西村会長) 高齢層はテレビを見る習慣が生活の中にある。取り込んだ方がよい。新しいものと既存のものを融合していく必要がある。

(池田委員) どんどん今の形をPRしてもらいたい。

(上野委員) 番組に仕上げる労力は大変だが、届け方を工夫するとユーチューブなどとは差別化が図れる。じっくり見れるのが強みだと思う。そこにアクセスする仕組みを整えれば現状のままでよい

(小林委員) Passionは内容が濃い。学校でも使ってもらいたい内容。百景も教育現場や観光でも生かせる映像。地域PRの要素に十分なりえる。

(佐藤委員) Passionの企業選びは困らない？

(佐藤) 取材のタイミングなどもあるが商工会議所の相談している

(佐藤委員) うち番組を上手に使わせてもらっていて、映像を見てもらえるから、新規の問い合わせにも苦勞していない。

他社さんも手を上げたい企業もあるのでは？

出来るだけ地元の企業を取り上げてもらいたい。

(齋京委員) 桑取のような地域は、JCVの番組を見ようという興味がわからない。

でもよい番組がこんなにあるのと思う。もったいない。

テレビを、見るための道具でしかないと思っている人たちにも、
番組の魅力を伝えたい。

(佐藤) 制作側も番組をPRしようという気持ちになっているが、
まだまだ足りないと思う

(3) その他

(池田委員) 番組の宣伝は入れている？JCV fan!は、チラシだと思ってしまう。
保存しておいてもらえる工夫は？

(上野委員) この形態は変わらず？読み物？

(福嶋) 撮影の裏側のクローズアップし、四月号からは紙面をリニューアル
する。

(西村会長) 番組の質が上がっている、教育現場でも活用してほしい。

ドローンでも、地域のいろいろな場所を撮影・紹介し、魅力を
伝えていってほしい。

5、閉会 (福嶋良章)